



## 福井県教育庁

# 生徒が「**念い**」を社会に発信する、 全国規模の「**プレゼン甲子園**」を開催

福井県は、学校間で連携して探究学習を行う仕組みづくりや、中学校での探究学習を評価する高校入試の導入、そして生徒が「念い」を伝える「全国高校生プレゼン甲子園」の開催などで、生徒主体の探究学習を支援している。

### 校内体制の構築と、 各校の実践の横展開を支援

福井県教育庁(以下、教育庁)は、県立高校の特色化の1つとして探究学習を掲げ、2022年度までに県立高校8校に探究系学科を設置するとともに、全校の探究学習の推進を支援する施策を講じている。教育庁高校教育課の渡邊本樹(わたなべ・もとき)参事は、そのねらいをこう語る。

「本県では4校がSSH(＊)に指定されており、各校の生徒は、探究学習に意欲的に取り組み、全国規模の発表会に出席して成果も上げています。そうした生徒を支援している各校のノウハウを県内

の全校に広め、県全体で探究学習を推進する体制を整えました」

22年度に講じた主な施策は、次の通りだ(P.18図1)。

#### ◎各校に探究学習担当者を配置

校内の探究学習の推進を中心的に担う校務分掌を設置し、探究学習担当者として、探究リーダー・ICT活用リーダー各1人、教科学習リーダー5教科各1人を配置するよう各校に依頼した。

#### ◎探究学習コーディネーターの巡回

退職教員2人を「探究学習コーディネーター」として配置。各校を訪問し、校内の探究学習を推進する体制の確立や、各校の実践の紹介など、探究学習の推進を支援

している。各校の探究学習担当者をつなげる役割も担う。

#### ◎教員研修を年3回実施

各校の探究学習担当者を対象とした教員研修を、22年度は3回実施。例えば、23年1月に行った研修には、全校の探究学習担当者が参加し、次年度の探究学習の年間計画を考える機会とした。

#### ◎全校の探究学習担当者が交流する場をオンライン上に設置

全校の探究学習担当者がオンライン上で交流する場を設置した。教員研修で各校の担当者同士の交流が深まるにつれ、交流の場の書き込みが増えていき、22年度末には、次年度の「総合的な探究の時



高校教育課  
副部長(高校教育)  
山崎良成  
やまざき・よしなり



高校教育課  
参事(大学進学サポート)  
西東一彦  
さいとう・かずひこ



高校教育課  
参事(授業力向上)  
渡邊本樹  
わたなべ・もとき



高校教育課  
指導主事  
家根谷直登  
やねや・なおと

#### ●自治体概要

高校数 県立25校、私立7校  
高校生徒数 約2万人

間」の年間計画についてアドバイスをし合うやり取りも見られた。

### 学校を超えた連携が活発化。 互いに刺激し合う生徒たち

以上の施策によって、学校間の連携が活発化している。例えば、県立高校5校が校則や校内ルール

＊ 文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール」の略。

※プロフィールは、2023年3月時点のものです。

図1 探究学習の推進に関する主な施策（2022年度）

- 校内体制の整備**  
各校に、探究学習を推進する校務分掌を設置し、探究学習担当者として、探究リーダー1人、ICT活用リーダー1人、教科学習リーダー5教科各1人を配置。
- 探究学習コーディネーターが各校を巡回**  
探究学習コーディネーター2人（退職教員）を配置し、各校を巡回して支援。ほかに、大学教員の探究学習アドバイザーも配置。
- 教員研修を年3回実施**  
探究学習担当者を対象にした教員研修を年3回実施。

実施月	テーマ	主な内容
8月	観点別学習状況の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>各校の探究リーダーが4グループに分かれ、校内体制づくりなどを議論</li> <li>県内の先進校2校の実践発表</li> <li>仁愛大学の西出和彦教授の講演</li> </ul>
1月	今年度の振り返り、次年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>國學院大学の田村学教授の講演（探究学習における教師の役割と実践など）</li> <li>各校の探究リーダー、ICT活用リーダー、教科学習リーダーごとの分科会で情報共有</li> </ul>
3月	生徒の変容、評価、校内体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>各校の探究リーダーが3人ずつのグループに分かれて情報共有</li> <li>研修内容についてオンラインでの事前説明会を実施</li> <li>事前事後アンケートを実施し、結果を共有</li> </ul>

- 高校間の情報共有を支援**  
Google クラウドルームに、探究学習担当者の交流の場を設置。年度当初には、すべての学校が、生徒の探究学習のテーマ一覧を、個人情報除外した形で共有した。
- 高校入試の改革**  
探究系学科を設置する高校が、探究系学科の入学者選抜で、中学校までの探究学習を評価する方法を独自に設定した特色選抜を実施（下表は一例）。

テーマ	特色選抜の内容
こし高志高校	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前課題 ①自分が関心を持つ内容の新聞記事等を選び、自分の考えを探究的観点でまとめる ②中学校での探究学習または英語に関する取り組みをまとめる</li> <li>口頭試問、面接</li> </ul>
たけふ武生高校	<ul style="list-style-type: none"> <li>試験会場で出された課題について、各自内容を検討し、ポスターなどを作成してプレゼンテーションを行う</li> <li>適性検査</li> </ul>

※福井県教育庁の提供資料を基に編集部で作成。

をテーマにした合同ワークショップを開催し、各校の実践を踏まえ、よりよい校則や校内ルールのあり方を議論した。また、課題研究のアドバイザーを務める大学教員の仲介で、県立高校2校の研究グループが学習会を開き、協働して学びを進めている。2校ともに「地域の地震」を研究テーマにしているが、それぞれ「地震の予知」、「活断層」と、題材が異なるため、互いに違う視点の意見を得る機会

となり、より探究が深まっている。「探究学習の成果を学校外で発信し、他者から意見を聞くことは、取り組みを客観視して改善したり、新たな発想が生まれたり、次の一歩につながります。その過程において、課題をますます自分事として捉えられるようになり、それが主体的な探究学習につながると考えています」（渡邊参事）

また、探究学習における中高連携を図ろうと、探究系学科を設置する高校が、高校入試において、中学校で取り組んだ探究学習を評価する特色選抜を実施している（図1）。高校教育課の山崎良成副部長は、その意図をこう語る。「中学校で取り組んだ探究学習の成果を、高校での探究学習に結びつけることで、自分の興味をさらに掘り下げてほしいという思いがあります。また、高校が探究学習を重視している姿勢を、高校入試において明確に打ち出せば、全

中学校に、自分のあり方・生き方を追究するような探究学習が広まると考えました。探究学習は自分にかかわる楽しい学びだと中学生が感じられるようになることで、県全体で生徒主体の探究学習が実現することを期待しています」

**自分の「念い」を持つまでの過程こそが、主体的な探究に**

生徒が探究学習の成果を主体的に発信する場として、教育庁は「全国高校生プレゼン甲子園」を開催している。「テーマについて深く考察した上で、論理的思考力、表現力、創造力を発揮して、自分の考えや念いを伝える総合的なプレゼンテーション能力の向上を図る」ことを目的とし、一般社団法人プレゼンテーション協会の代表理事が同県出身であることが縁で始まった。22年度は34都道府県から441チームが参加した全国規模の大会で、23年度に第3回を迎える（図2）。高校教育課の西東一彦参事は、「念い」とした意図を次のように語る。

**図2 2023年度「第3回 全国高校生プレゼン甲子園」実施要項**

●**テーマ（予選・決勝共通）**

「Well-being（ウェルビーイング）と未来社会—幸せとは何か—」  
個人の幸せの追求にとどまらず、広く、地域社会、若しくは日本や世界全体の Well-being を実現するための具体的なアクションを提案する

●**応募資格** 高校生1チーム3人まで（個人でも可）

●**審査方法・日程**

- 1次審査：予選動画提出 5月26日（金）～6月7日（水）
- 2次審査：ブロック選抜（オンライン） 7月8日（土）～9日（日）  
開催県を含む全国7地区に分け、予選動画についてオンラインによる質疑応答を実施

**決勝大会**：対面審査（会場・福井県） 8月19日（土）  
各ブロックを勝ち抜いた10チームが、テーマに沿ったプレゼンと質疑応答を実施（プレゼン時間5分間）

※最優秀賞、優秀賞のほか、ブロック賞や学校奨励賞なども創設

●**過去の予選応募数**

- 第1回 29 都道府県 85校 409チーム（県内288、県外121）
- 第2回 34 都道府県 107校 441チーム（県内300、県外141）

応募方法など、詳細は公式ウェブサイトをご確認ください。  
下記 URL、または右記2次元コードでアクセスできます。

[https://presen.or.jp/presen\\_koshien/](https://presen.or.jp/presen_koshien/)

全国高校生プレゼン甲子園



※福井県教育庁の提供資料を基に編集部で作成。



写真 プレゼン甲子園の決勝大会では、会場を巻き込むパフォーマンスを交えてプレゼンテーションをするチームもあった。決勝大会の動画は、公式ウェブサイトで公開中。

「代表理事の言葉を借りて言え

ば、相手の心に響くプレゼンは、

確固たる『信念』があってこそで

きるものです。その信念を持つた

めには、どんな課題を設定し、ど

のような情報を収集して、どう分

析するか。そうしたプレゼンに至

るまでの過程が重要であり、それ

がまさに主体的な探究になると考

えています。決勝大会では、プレ

ゼン5分間に対して、質疑応答を

10分間とし、出場者の念いを丁寧

に見ています」

いくつかの応募校では、自校の

探究学習のねらいに応じてプレゼ

ン甲子園を年間計画に組み込んで

いる。1年次に組み込んでいる学

校は、探究サイクルを回す練習の

機会の1つとしている。2・3年

次に組み込んでいる学校は、1年

間の探究学習の成果を発表する場

として応募させたり、学年で代表

者を決め、取材や調査を追加して

プレゼン内容に磨きをかけた上で

大会に臨んだりしている。

**大会での客観的な評価が  
次の一歩につながる**

22年度の決勝大会では、全国を

勝ち抜いた生徒の熱いプレゼンが

繰り広げられた（写真）。「どのチー

ムも全身を使って伝えようとする

姿に、私も熱くなりました」「持

続可能な未来について真剣に考

え、行動している仲間に出会えて

よかったです」といった声が出場

者から聞かれ、互いのプレゼンに

感想を述べ合う光景が見られた。

自分が興味を持って主体的に突

き詰めた探究学習は、生徒の様々

な自己実現につながっている。決

勝大会でのプレゼンが協賛企業

の目に留まり、米粉ストローの商

品化が検討されている。ある生徒

は、決勝大会の経験から、地元へ

の貢献の思いを強くし、福井大学

国際地域学部総合型選抜で探究

学習の実績をアピールして合格し

た。プレゼン甲子園事務局担当の

家根谷直登指導主事は、こう語る。

「向き合う問いの正解が1つで

はなく、成果も実感しづらいのが

探究学習です。本大会が、自分の思

いが観客に伝わった、あるいは伝

わらなかつたと、生徒が実感でき

る場となるよう、運営しています」

教育庁は、今後も様々な形で探

究学習の推進を支援していく。

「探究学習は、多くの人の幸せ

につながる学びであり、未来に向

かって期待感を持って進める学び

です。生徒も教師も、探究学習を

自分事にするとともに、社会をよ

りよくしたいという思いを持って

主体的に取り組んでいけるような

機会を、これからも提供したいと